

西東京市役所FSプログラム 児童館ランチタイム

| | |
|---------|---|
| プログラム概要 | ： 保護者の就労などで昼食が「孤食」になりがちな児童ために、夏休み期間ランチタイムを開催し、子どもたちと楽しく食べる時間を共有し、現状やコミュニケーションのノウハウを学ぶ |
| 実習先 | ： 田無児童館（東京都 西東京市） |
| 実習先情報 | ： 乳幼児から高校生年代までを対象に、遊びを通じて子どもたちの健全育成を図るために設けられた施設 |
| 参加人数 | ： 3名 |
| 学部学科 | ： 幼児教育学科 2名、政治学科 1名 |
| 実習期間 | ： 令和7年8月4日～8月29日 |
| 本学担当教員 | ： 水越俊行 |

○はじめに

まず、児童館での活動を通して食事での基本的なマナーや必要な事を子どもたちにわかりやすく伝えることを目標とし、グループのセーフガーディングを子ども一人ひとりと丁寧に向き合い、その気持ちを大切にすること、子供の声に耳を傾け気持ちを受け止めることで、心も安心できるような環境を作ること、暴力や差別のない安心安全な環境づくりを意識することとする

○実習内容

- ・ 児童館前の掃き掃除
- ・ ランチタイムの指導
- ・ 子どもたちの遊び指導

例) ボードゲーム、カードゲーム、卓球、ボール遊び、縄跳び、一輪車、折り紙、めりえ、けん玉など

○苦労したこと

・ 変なノリに巻き込まれたときの対処である。そのノリになんと返すのが正解なのだろうと考えすぎてうまく返すことができず、結局やめさせることができないことがあった。しかし、児童館の方に相談したところ、自分が違うと思うことは違うと伝えるなどといった自分が思ったことを伝えることや、嫌なことは嫌と伝えることが大切であると学んだ。

・ 子どもたちに対しての注意の仕方や、注意するタイミング、自分が介入するべきなのかなどといったことも苦労した。

○嬉しかったこと、学んだこと、など

・ 日を重ねるたび、子どもたちが気を許して名前を呼んで話してくれたり、遊んでくれたり、最初話してくれなかった子が、話かけてくれるようになったことがとても嬉しかった。

・ 子どもは年齢や性格によって遊びの内容や関心が異なるため、一人ひとりに合わせた関わりが大切であると学んだ。また、ブロックなど限られた素材でも、子どもは想像力を活かして遊びを広げられることや、小さいものから何かを作り上げる集中力や工夫する力を持っていることを実感した。

加えて、職員の方の子供に対する声掛けやかかわり方を観察することで、自分が子供に接するときの参考にできる点が多くあったと感じた。

○今後の展開、今後の学び

- ・子供と適切なかかわり方を知るということは、この実習を通したくさん知ることができたが、まだ知ることができていない部分や不十分な部分があると考えため、今後もこのことを知ることを課題とする。
- ・子どもたちは自分たちが思っているよりも、成長するスピードが速いことを実感し、そこから自分自身学べるが多かった。今後も子供たちの成長を観察し、知識を蓄えていきたい。

○まとめ

- ・実習を通して、最初は小学生の関わり方があまりわからなく、どのように声をかければよいのか、どのようなことが好きなのか、どこまで関わってよいのかなどと疑問に思うことが多く、実習を行うのに不安であったが、火を重ねるたび、子どもの関わり方をつかめるようになった。最終的には、たくさんの子どもたちと関わり、とても満足いく実習を行うことができた。

西東京市役所FSプログラム 児童館ランチタイム

| | |
|---------|--|
| プログラム概要 | : 終日児童館勤務に従事することで、子どもたちの「孤食」の現状やコミュニケーションのノウハウを学ぶ |
| 実習先 | : 北原児童館 |
| 実習先情報 | : 18歳未満の子どもを対象とし、地域における遊びや生活の援助と子育て支援を行い、子ども心身を育成し情操を豊かにすることを目的とする施設 |
| 参加人数 | : 3名 |
| 学部学科 | : ウェルビーイング学科、サステナビリティ学科、数理工学科 |
| 実習期間 | : 令和7年8月4日～8月29日 |
| 本学担当教員 | : 水越俊行 |

○はじめに

子どもと対話をすることで交流を深め、仲良くなると同時に、児童館の社会的な役割を理解し、地域社会を活性化させる

○実習内容

- ・環境整備（消毒、清掃）
- ・ランチタイム指導
- ・子供の遊び見守り、指導

ex) カードゲーム、ボードゲーム、ドッチボール、バドミントン、けん玉遊び、工作、ぬりえ

- ・イベントの補助（へびのたまご、万華鏡、ロケットキャッチ）



○提案したこと、発信したこと

・新しく子どもが考えた遊びに危険性がある場合、なるべく遊びを壊さないまルールを設けた。

・いつも本を読んでいる子や体育室で遊んでいる子にも工作がある週には積極的に魅力を伝え、一緒に作ろうと提案した。

○経験したこと、学んだこと、など

・児童が言い合いをしたり、正しくない遊び方をしているときの注意の仕方が難しかった。声をかけないと児童が怪我をしてしまう可能性があるため、児童館の先生の声のかけ方を見て、注意するように心がけた。

・児童一人ひとりを平等に指導するために、体育室を使う時間や折り紙の枚数など、児童館の規則や先生方の配慮があった。

・同じ遊びでも、年齢や子どもの性格によって理解のスピードや反応が違うため、接し方や言葉のかけ方を工夫する必要があると実感した。

○今後の展開、今後の学び

・児童館では先生方が常に見守っている状態で遊んだり、お昼ご飯を一緒に食べたりすることができた。保護者の方の支えになるように児童館の存在を広めたい。

・子供と遊んだことはあったが、注意の仕方や話の聞き方などはわからなかったため、これから子供と接するときのために適切な方法を学びたい。

・児童館の先生方と児童のように、どのように接していたら信頼関係を作ることができるのか学びたい。

○まとめ

学年、性別問わずたくさんの子供とふれ合うことができた。子供達と遊ぶと、純粹や素直で思ったことは何でも言うし、気にしなくていい様なことも、自分が納得しないことがあれば何でも口出ししているのを見て、自分も周りの目を気にせずありのままに生きたいと感じた。子供達に怪我や不快な思いをさせない様にするために、常に子供達の立場に立って考える事が多く、相手への思いやりをもつ大切さに気づかされた。

西東京市役所FSプログラム 児童館ランチタイム

| | |
|---------|--|
| プログラム概要 | : 保護者の就労などで昼食が「孤食」になりがちな児童ために、夏休み期間ランチタイムを開催し、子どもたちと楽しく食べる時間を共有し、現状やコミュニケーションのノウハウを学ぶ。 |
| 実習先 | : 芝久保児童児童館 〒188-0014 西東京市芝久保一丁目16番18号 |
| 実習先情報 | : 乳幼児から高校生年代までを対象に、遊びを通じて子どもたちの健全育成を図るために設けられた施設。 |
| 参加人数 | : 3名 |
| 学部学科 | : 社会福祉学科、教育学科、幼児教育学科 |
| 実習期間 | : 令和5年8月4日～8月29日 |
| 本学担当教員 | : 水越俊行 |

○目標

子供たちと仲良くなる

コミュニケーション能力を向上させる

児童館が子供たちにとってどのような場所か理解する

○実習内容

- ・設備管理(清掃、消毒、水やり、準備・片付け)
 - ・児童館に来た子ども、学童の子どもたちと遊ぶ
- ex) ボール、カードゲーム、ボードゲーム、お絵描き、工作、バドミントン
- ・ランチタイム(お弁当を持ってきた子どもと話す、遊ぶ、テーブル準備・片付け)
 - ・工作イベントの補助(ストラップ作り、おぼけの的あて、射的)

基本的に子どもたちとずっとたくさんの遊びをして過ごしていました。私たちよりも体力や元気があって常に動いている印象でした。おとなしく本を読んでいる子、数人でカードゲームをしている子、けん玉に挑戦している子、ドッチボールばかりやる元気な子。それぞれのやりたいことや個性が出ていて私たちもみんなにまぎって今ではしないような遊びができてとても楽しかったです。

○苦勞したこと

- ・ルールを守ってくれない子どもがいたこと
- ・おもちゃを独占してしまう子どもがいたこと
- ・子ども一人一人性格が違うため、接し方を考えなければならないこと

このような子供たちがいた時や、子ども同士での喧嘩が起こってしまったときの職員の方々の対応を観察し、どう解決したらいいのかを学ぶことができた。

○学んだこと

・どうしても大人とばかり遊んでしまう子がいるけれど、それはお友達を誘うのが苦手という理由や関わりを持つのが難しいというそれぞれの理由があるということを知った。

また、児童館は他の学校のお友達や、新しいお友達との関わりを持つことが出来る場所で、みんなと遊びたい、この遊びがしたいからなど理由はさまざまであるが、学童とは違い、自分の意志で来ているのだということ学んだ。

そして、児童館というみんなの集まる居場所があることの大切さや必要性を感じることができた。

・子どもは一人一人性格や考え方が違う。その中で、同じ学年だけではなく、他の学年や他の学校の子とも仲良くなれるきっかけを作ることができる児童館は素敵な場所だと学ぶことができた。子どもたちが毎日、児童館に通って楽しそうに遊んでいる姿を見て、子供たちにとって児童館は、安心して過ごせる居場所になっているのがと感じた。

子ども同士でボールの取り合いになった時、子どもたちが自分でじゃんけんをして解決をしていた。このことから、子どもたちは子どもたちなりに考えて、解決しようとしているのだと学んだ。

○今後の展開

児童館には一人一人異なる考え方・価値観を持っており、その子にあった柔軟な対応が実習を通して身に付けることができ、社会に出た際、子供に関わる仕事以外にも人と関わる場面があったら活かしたいと考える。また遊びの中で喧嘩・口喧嘩が起きた際に仲裁や子供同士で思いを伝え合わせるといった介入しすぎない立ち回りも今後活かせると感じた。

○まとめ

今回の実習を通して、座学だけでは学ぶことのできない特別な学びを得ることができた。子どもにとって、児童館という場所は新しく友達を作ることができ、友達と楽しく遊ぶことができる、安心する居場所になっているのだと感じた。

西東京市役所FSプログラム 児童館ランチタイム

- プログラム概要 : 長期休みに保護者の就労などで孤食になりがちな児童のためにランチタイムを実施し、楽しく食事をする。
- 実習先 : 新町児童館
- 実習先情報 : 緑豊かな多摩湖自転車歩行者道に近い、閑静な住宅街の中で運営される児童館。1階は福祉会館、2階は児童館の複合施設となっている。
- 参加人数 : 3名
- 学部学科 : 政治学科、経営学科、会計ガバナンス学科
- 実習期間 : 令和7年8月4日～8月29日
- 本学担当教員 : 水越俊行

○はじめに

私たちは以下の目標を立て、実習を行った。

- ・子供たちと積極的に交流し、仲良くなる。
- ・職員の方々の感謝を忘れず、進んで児童館の業務を手伝う。
- ・挨拶や言葉遣いを意識する。

○実習内容

- ・子供との遊び指導（児童館、学童）
- ・ランチタイムの運営、指導
- ・工作イベントの手伝い、補助（やじろべえ、小物入れ）

○嬉しかったこと

- ・子供たちがとてもなついてくれたこと
- ・懐かしい遊びや知らない遊びをたくさんできたこと
- ・子供ならではの表現や考え方を知れたこと

→普段経験することのできないような貴重な体験がたくさんできた

○大変だったこと

- ・子供同士で意見が衝突したときの対応や声のかけ方
- ・子供の体力についていくこと
- ・ランチタイム中の話題（夢中になって盛り上がりすぎず、楽しい話題）

○経験したこと、学んだこと、など

- ・考え方や価値観の違う子同士でのコミュニケーションのとり方
- ・周りを見渡して判断する力

→積極的に子供たちと関わることで、個性を理解し関わり方を工夫することができた

○今後の展開、今後の学び、

この実習を通して、相手の年齢や性格に合わせた伝え方や言葉遣いの工夫の仕方を学んだ。実習で得たコミュニケーション能力や周りを見渡して判断する力を、今後子供と関わる際や様々な価値観を持つ人と一緒に仕事をする際に活かしたい。

○まとめ

実習をしてみると楽しいことだけではなく大変なこともたくさんあり、“子供が好き”という気持ちだけでは務まらない仕事だと思った。子供たちの話を丁寧に聞いて、今したいことや思っていることを見つけられるようになった。様々な考え方や価値観を持つ子供それぞれと関わったことで、これまで以上に相手の考え方や感じ方を想像し、多角的な視点から物事を捉える力を身に着けることができた。実際に思っていたよりも子供たちと触れ合うことの大変さを実感した。

西東京市役所FSプログラム 児童館ランチタイム

| | | |
|---------|---|--|
| プログラム概要 | ： | 両親の共働きなどにより「孤食」になりがちな子どもたちのために夏休みの期間児童館でランチタイムを開催し他者とのコミュニケーションや信頼関係を築く。 |
| 実習先 | ： | 中町児童館 |
| 実習先情報 | ： | 乳幼児から小学生以上を対象としたさまざまな活動を行っている。 |
| 参加人数 | ： | 3名 |
| 学部学科 | ： | 経営学科 教育学科 人間科学科 |
| 実習期間 | ： | 令和7年8月4日～8月29日 |
| 本学担当教員 | ： | 水越 俊行 |

○はじめに

まず、子どもたちが明るく安心できる雰囲気づくりを心掛けて活動し、この活動を通して将来に役立つ力を身に着けることを目標として、グループのセーフティーゲーディングを「心を傷つけるような言葉や態度を取らない」「不必要な接触や強制的な行動を避ける」「子どもたちの意見や気持ちを尊重する」「差別したりえこひいきをしない」「事前にルールを細かく確認し、けんかなどのトラブルを防ぐ」こととする。

○実習内容

実施期間内に各自11日間で中町児童館で活動を行う。

一日の実施内容は以下の通りだ。

| | |
|-------------|---------------|
| 9:30～11:45 | 子供たちと遊ぶ |
| 11:45～12:00 | 片付け・ランチタイムの準備 |
| 12:00～13:00 | ランチタイム |
| 13:00～14:00 | 休憩 |
| 14:00～17:30 | 子供たちと遊ぶ |

また、数日間限定で塩細工作りのサポートも行った。



○大変だったこと

今まで私たちは子供たちと関わる機会がなかったこともあり、子供たちとの向き合い方について知識や経験が少なく苦労した。また、児童館には多くの様々な子供達が遊びに来るため、一人の子供に限らず、全体の様子にも機にかけるのが難しかった。それに加えて、大学生だが一人の“大人”として行動することは責任重大であり、様々なことを常に考えていかななくてはならないのも大変だった。

○楽しかったこと

この長いようで短い11日間で最初はあまり話してくれなかった子供たちが心を開いてくれたことがとてもうれしかった。子供たちが自分たちのために何かを作ってくれたり、名前を覚えてくれたり、手を振ってきてくれたり、最終日にはお手紙をくれたりととても嬉しかった。また、自分が子供たちの話題を作れた時も嬉しかった。自分たちが教えた新しい知識に好奇心を抱き、それ(折り紙)に熱中して出来るようになって喜ぶ姿を見れたときは、些細な事だけれど子供たちの成長に携われたような気がして嬉しかった。

○学んだこと、考えたこと

子供たちは本当に元気いっぱいだということを改めて実感した。だが、子供たちに負けないぐらい児童館の方々も明るく元気で、子供たちと一緒に楽しく遊んでいた。このような児童館の方々だからこそ、子供たちと尊敬し合い、信頼を得ていて、子供たちの心を動かす力があるのかもしれないと思った。また、ほんとに年齢関係なく、様々な性格の子がいることを実感した。細かい作業が得意な子、粘り強い子などこの11日間で子供たちの特徴もわかったことにより、その子に合った教え方、対応の仕方を工夫できたと思う。さらに、子供たちは好奇心旺盛で、新しいことに目を輝かせるということも改めて学んだ。児童館の方々にも教えていただいたが、同じ遊びでもゲームのルールを変えてみたり、新しい知識等を教えることで、子供たちはワクワクしながら楽しんでくれることがわかった。さらに、子供たちと関わるうえで、細かいことも常に考えていかななくてはならないことも学んだ。児童館の方が、子供たちと会話する際に、ただただ会話するのではなく、子供たちが自分の言葉で話すことができるように、5w1hの質問で会話を広げて言っていることに気が付いた。細かいことも意識することによって、子供たちの成長をよりサポートできるのだなと学んだ。

○今後の展開、今後の学び

今後、子供たちと関わる機会は人によって異なると思うが、固定概念を持たずに、柔軟性を兼ね備えた人間になっていきたいと思った。そして、子供たちとは上下関係を築いて行くよりも、横の関係を大切にして、子供たちと尊敬し合い、信頼し合える関係を作っていくことが大切で、そうすることによってお互いに影響を請け合い、大人と子供どちらも成長できると思う。このことは、子供との関わりに限らず、大人間でのかわりでも大切なことだと思うので、以上のことを私たちは今後意識していきたい。

○まとめ

児童館実習を通じて、子供たちと接する中で多くの気づきを得られた。子供たち1人1人の個性や趣味を理解し、適切に関わることの重要性を実感した。また、児童館は子供たちが安心して遊び、学び、交流できる場であり、子供たちの成長にとって不可欠な存在であると認識した。児童館実習は、実際に現場の雰囲気を感じることができた貴重な経験だったので、今後この経験を様々な場面で活かしていきたいと思う。

西東京市役所FSプログラム 児童館ランチタイム

| | |
|---------|---|
| プログラム概要 | ： 保護者の就労などで昼食が「孤食」になりがちな児童のために、夏休み期間ランチタイムを実施し、楽しく食事する時間を共有する・児童館業務 |
| 実習先 | ： ひばりが丘北（東京都 西東京市） |
| 実習先情報 | ： 乳幼児から高校生年代までを対象に、遊びを通じて子どもたちの健康育成を図るために設けられた施設 |
| 参加人数 | ： 3名 |
| 学部学科 | ： 教育学科、幼児教育学科、社会福祉学科 |
| 実習期間 | ： 令和7年8月4日～8月29日 |
| 本学担当教員 | ： 水越俊行 |

◎はじめに

私たちは、11日間にわたって児童館での実習に参加し、学童の子供たちや一般でできている子供たちと関わる機会をいただいた。日常生活のサポートやランチタイムの補助を行う中で、子供たちの成長に触れることができ、現場でしか得られない多くの気づきを得られた。本成果報告ではその実習内容を振り返り、得られた成果や課題を整理し、今後の活動に生かしていくことを目的とする。

○実習内容

- ・子どもたちの遊び指導(児童館、学童)
- ・ランチタイム補助
- ・遊び道具の準備、片付け(けん玉、こま、ボードゲーム、レゴブロックなど)
- ・掃除、消毒

○提案したこと、発信したこと

ランチタイムの際に、口をあけながら食べている子に対して、「食べてるときは口に手を当てるか食べ終わってから話したら素敵だよ☆彡」とアドバイスをした。また、自由遊びの時間に廊下で走っている子に対して「怪我しちゃうかもだから歩こうね!」とルールを確認させることができた。ほかにも、遊びに入りたそうな子がなかなか声をかけられないときに「〇〇ちゃんも次一緒にこれやるのはどう?」と聞くと、みんなも「やるやる!」と前向きに遊びに誘ってあげる姿勢を示してくれた。

○経験したこと、学んだこと、など

- ・「先生」という立場での子供との接し方を体験することが出来た良い機外であると感じており、子供との距離感や言葉遣い、注意の仕方などをより一層気をつけた上で行動することが出来た。
- ・児童館だけでなく学童の子どもたちとも接することでより年齢層の違う子どもたちとの関わり方を学ぶことが出来た。それと共に児童館と学童の違いについても実感することが出来た。
- ・少しでも落ち込んでいる子がいたらそっと寄り添い話を聞く姿であったり、おでこに手をあてている子供を見かけたら咄嗟に声をかけ、「大丈夫?体調悪いの?」などの声掛けを行うなどの先生方の一つ一つの細かな行動がとても勉強になった。たくさんの子供たちがいる中で小さな変化に気づき、素早く行動する先生の姿に刺激を受けた。

○今後の展開、今後の学び、など

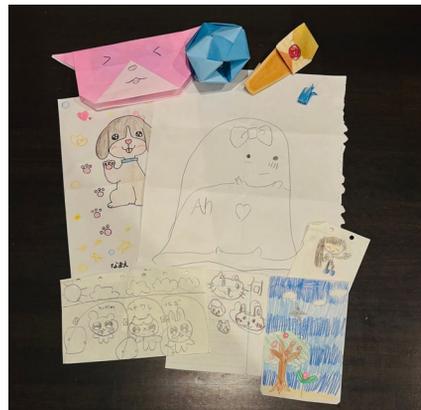
・子どもたちにとって児童館は遊びに来ている(今回の期間の場合はランチに来ている)と感じている子が多かったがこの場ではたくさんの友達や初対面の人とでも会話をしコミュニケーションがとれるようになっていたので自然とお友達が増えることで友達の輪も広げられる素晴らしい場所であると感じた。

・学童では1人で何かをすることも多いが友達(仲間)と協力する姿もみられた。だがそこには子どもたち同士だけでなく、先生や児童館の職員の方などの協力があったからこそのものであるということを学ぶことが出来た。そこから実習ではその一員として加わらせて頂いたが今後は自分たちが主となって行動していくという自覚を持つことが出来た。

・先生方の行動から子どもたちと一緒に遊ぶだけでなく時には少し離れたところから一人一人の行動や様子を伺うという役割の違いがあるということを知ることができ、そこから常に子どもたちを観察する力が必要であると感じた。

○まとめ

今回の実習を通して、今まで子どもたちと接する機会はほぼなかったので貴重な経験となった。小学一年生から四年生までの学童の子、児童館に来た子との幅広い年齢の子との関わりから子どもたちと遊ぶ楽しさ、大変さなど様々なことを学ぶことができた。また、子どもたち一人ひとりの性格や個性の違いを知り、実際に子どもたちと触れあわないと分からないことがあることに気づいた。今回の実習で学んだことを大切に、一人ひとりの将来に活かしていきたい。



西東京市役所FSプログラム 児童館ランチタイム

| | | |
|---------|---|--|
| プログラム概要 | ： | 保護者の就労などで昼食が「孤食」になりがちな児童のために、夏休み期間にランチタイムを実施し楽しく食事をする児童館業務を行う。 |
| 実習先 | ： | 西原北児童館 |
| 実習先情報 | ： | 〒188-0004西東京市西原町四丁目5番96号 |
| 参加人数 | ： | 2名 |
| 学部学科 | ： | ウェルビーイング学部、グローバル学部 |
| 実習期間 | ： | 令和7年8月4日～8月29日 |
| 本学担当教員 | ： | 水越俊行 |

★主な実習内容

1. 朝の清掃 (机と椅子のアルコール消毒)
2. 児童と遊ぶ
3. ランチタイム (準備や食事の見守り)
4. 児童と遊ぶ

活動の中心は、子どもたちと一緒に遊んだり日常のサポートをすることでした。鬼ごっこやボール遊び、ボードゲーム、絵本の読み聞かせなど、年齢や興味に合わせた活動が多く、体力も使う時間がたくさんありました。また、職員の方々の補助として、遊びの準備や片付けを手伝うこともありました。さらに、私たちはイベント活動として最終日に「フラフープリレー」を企画して実施しました。ルールを考える段階から準備まで自分たちで行い、当日は子どもたちに楽しんでもらえるよう工夫しました。フラフープをチームで回していく中で、子どもたちが協力したり、競い合いながら笑顔を見せてくれる姿がとても印象的でした。

★苦勞したこと・大変だったこと

一番大変だったのは、子どもたちのパワフルさに自分の体力がついていかないことでした。特に、複数の子どもが同時に声をかけてきたり、遊びたい内容がバラバラだったりすると、どう対応していいか迷う場面が多くありました。

さらに、トラブルがあった際に児童によって取るべき対応が違うことも苦勞しました。うまくいかない時に黙ってしまう児童の対応と、全部勢いで話す児童の対応は全く異なり、戸惑ってしまうことがありました。

また、イベントを企画する中でも苦勞がありました。フラフープリレーは一見シンプルな遊びですが、子どもの年齢差や安全面を考慮しながらルールを工夫する必要がありました。当日は盛り上がりましたが、進行の仕方や時間配分などで改善できる点も感じました。

☆楽しかったこと

最初は子どもとの距離を感じていたのですが、少しずつ自分に慣れて話しかけてくれるようになった瞬間はとても嬉しかったです。特に、名前を呼ばれたり、「一緒に遊ぼう」と誘われたりしたときは、自分が受け入れられたように感じて達成感がありました。

また、イベントで企画したフラフープリレーは、子どもたちがチームで協力して盛り上がる姿を見られて、とても楽しく、やりがいを感じました。

☆FSを通して学んだこと

この活動を通して、子どもと関わる上では「遊びの内容」よりも「一緒にいること」や「安心できる雰囲気を作ること」が大切だと学びました。

さらに児童に対する職員の方々の対応から厳しく注意することの大切さを学びました。自分が苦手な児童に対して強く注意・指摘することを見つめなおすきっかけになりました。

また、イベント企画を通じて、活動をただ提供するだけでなく、「どうすれば子どもたちが楽しめるか」「安全に参加できるか」を考える視点の大切さを実感しました。職員の方々の細やかな配慮や観察力からも学ぶことが多く、子どもの安全を守るためには常に周囲を見渡し、臨機応変に対応する必要があると感じました。

☆経験してみてもわかった課題

イベント運営では楽しさだけでなく安全面や進行管理も重要であることがわかり、準備段階での想定不足を課題として感じました。今後は子どもがもっと主体的に楽しめるように、遊びやイベントに「選択肢」や「工夫」を取り入れる必要があると感じました。また、予期せぬトラブルや子どもの気分の変化にも柔軟に対応できる力をもっと身につけることが課題だと思います。

☆まとめ

児童館での活動は決して楽なものではありませんでしたが、その分大きな学びを得ることができました。特に、イベントを自分たちで企画・実施した経験は、子どもたちの反応を直接見られる貴重な機会であり、自分自身の課題を発見するきっかけにもなりました。子どもとの関わりを通して得た気づきを、今後の学生生活や将来の活動にも活かしていきたいです。

西東京市役所FSプログラム 児童館ランチタイム

- プログラム概要 : 夏休み中、保護者の就労などで昼食が「孤食」になりがちな児童のための場所を提供し、また子供たちの現状やコミュニケーションのノウハウを学ぶ場を設ける
- 実習先 : 田無柳沢児童センター
- 実習先情報 : 乳幼児から高校生年代までを対象に、遊びを通じて子どもたちの健全育成を図るために設けられた施設
- 参加人数 : 3名
- 学部学科 : 日本文学文化学科、経営学科、数理工学科
- 実習期間 : 令和7年8月4日～8月29日
- 本学担当教員 : 水越俊行

○はじめに

・グループ目標

子供たちも自分たちも「楽しい」をモットーにする

・グループのセーフガーディング

子供の安全第一に行動、子供たちの意思を尊重して成長を促す、個人を尊重する、子供たちに等しく接して仲を育む

○実習内容

ランチタイムの補助…一緒にしゃべりしながらご飯を食べる

児童館や学童の子たちと遊ぶ…ドッチボールや鬼ごっこ、ボードゲーム、お絵描き等



←実習先の子からもらった猫ちゃん



実習先の子とごっこ遊び中→

地域の方々とのコミュニケーション…幼児ルームにご来館される地域の方やボランティアで来られる方のサポート

工作、イベントの補助…5日から7日はサマーボトル

13日から15日はゆらゆらバード

19日から22日はフィンガーブーメランの製作

14日、15日は水遊びの実施



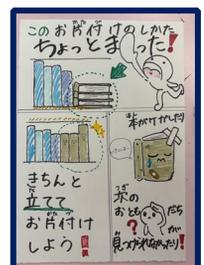
←サマーボトル

水遊びの道具の準備→



環境整備…本の整理整頓、POP作り

実際制作したPOP→



○大変だったこと

- ・みんなで遊べる遊びを提案すること
- ・人数が多かったので名前を覚えて呼ぶこと
- ・けがを未然に防ぐこと
- ・順番などを介入なしで本人たちどうしで解決してもらうこと

○経験したこと、学んだこと

- ・人数が職員さんも児童さんも多く、その分いろいろな考え方があるので、いろいろな人の意見を一気に尊重するのは難しいこと
- ・ボランティアの方や学童卒業の子がいっぱい来館されて、地域の人たちありきで子供たちの笑顔があること
- ・児童さんたちに楽しんでもらいたくて、わたしたちが普段見えないところにもいろんな工夫が施されていたこと
- ・能動的になって仕事にひたむきに取り組むこと

○今後の展開、今後の学び

- ・ルールをこっちから提示するのではなく、子供たちで決めてもらうことで、考える力や譲り合うなどの社会性も培うことを今後小さい子と触れていく中で大切にしたい。

○まとめ

- ・今回の実習を通して子供たちと触れ合う楽しさや難しさを感じることができた。この貴重な経験を踏まえて、将来に活かしていきたいと思った。
- ・子供たちと常に関わる職員の人たちの大切さを感じることができた。今回のFSの活動を活かし、自分たちは「子供たちを支える側の大人」だという自覚をもって過ごしていきたいと思った。

西東京市役所FSプログラム 児童館ランチタイム

| | | |
|---------|---|--|
| プログラム概要 | : | ランチタイム、掃除、子ども達と一緒に遊ぶ |
| 実習先 | : | 保谷柳沢児童館 |
| 実習先情報 | : | 月曜日から土曜日の9時15分から18時まで開館している。 0歳～18歳未満の子が利用することができる。 |
| 参加人数 | : | 3名 |
| 学部学科 | : | 数理工学科、グローバルコミュニケーション学科、 データサイエンス学科 |
| 実習期間 | : | 令和7年8月4日～8月29日 |
| 本学担当教員 | : | 水越俊行 |

○はじめに

子どもたちと触れ合い、コミュニケーション能力や社会性を身につける！

○実習内容

- ・掃除（朝顔の水やり、おもちゃの消毒など）
- ・ランチタイム
- ・子どもの遊び指導（カードゲーム、ボードゲーム、ドッジボールなど）
- ・工作イベントの補助（こま、ミサンガ、ミニバスケット）

実習の最初に、まず児童館の外回りの掃除や朝顔への水やりに取り組んだ。また、子どもたちが使用のおもちゃの消毒作業や栽培しているトマトや朝顔の手入れなども行った。その後、子ども達と一緒に様々な遊びに参加した。室内ではトランプやUNOなどのカードゲームや野球盤、オセロなどのボードゲームを楽しんだ。体育館では、ドッジボールやバドミントンなどの球技を中心に子ども達と一緒に体を動かす活動を行った。ランチタイム時は子どもたちに手洗いうがいを促すと共に、テーブルの消毒など子どもたちが安心安全にご飯を食べられるようにした。食事中は、好きなゲームや漫画、アニメなどの話題から日常生活での出来事など様々な話題で盛り上がった。

○経験したこと、学んだこと、など

<経験したこと>

- ・子ども達の夏休みの過ごし方
- ・ランチタイムという制度の重要度

<学んだこと>

- ・児童館の役割
- ・子ども達の接し方

11日間の児童館実習を通して、子どもたちが夏休みをどのように過ごしているのか、そして児童館が地域や子どもにとってどのような役割を担っているのかを深く理解することができた。実習の中では、子どもたちに思ったことをうまく伝えられない場面もあったが、職員の方々の対応を見て、危険なことやしてはいけないことをしっかり伝えることの大切さを学んだ。またランチタイムでは、とても賑やかな雰囲気子どもたちの昼食を食べている姿を見て、児童館のランチタイム制度の重要さを改めて実感した。さらに、小学生だけでなく中学生や高校生も一緒に遊んでいる様子を見て、児童館が地域の子供たちにとって心が落ち着き安心できる大切な施設であると再認識することができた。

○今後の展開、今後の学び、など

- ・ 何でダメなのか具体的にいうようにする
- ・ 常に周りの状況を把握できるようにする
- ・ 何事にもすぐに諦めず、まずは挑戦するようにする

子どもと関わる上で、ダメなことはしっかりと教えてあげておくことを躊躇してしまっ
てなかなか注意できなかつた反省点などがあつた。ダメな時に、「だめ！」としっかり
と言うのではなく、それをされた時の相手の気持ちを教えてあげるなど、子ども自
身が考えてしてはいけないことを理解させることが大切だと感じた。また、ドッジボ
ールをしている時に小学生が高校生達相手に勝負を挑んでいる姿を見て失敗してもチ
ャレンジすることの大切さを学んだ。これらのこと以外にも、毎日子ども達には新た
な経験をさせてもらった。子ども達の元気や素直さに触れる中で、自分も前向きな気
持ちになりまた一つ成長のきっかけをもらえたと感じている。

○まとめ

今回の実習を通して、普段接することのない子ども達と楽しく過ごすことができた。
最初は、戸惑ってしまうことが多々ありましたが子ども達や児童館の職員の方々のお
かげで徐々に打ち解けることができ、11日間を無事に楽しく充実した日々にするこ
とができた。また、子ども達と過ごしているうちに距離感の取り方や一人一人の子ど
もの好きなことを知り自分の知らない新たな一面を見つけることができた。今回の実
習で学んだことを今後の生活に活かしていきたい。